

## 目標をハッキリしてから頑張る

王仕豪

2012年7月、私は広州大学土木建築専攻を卒業し、同年7月に亜細亜友之会外語学院に来ました。先生方の助けのおかげで、2013年10月に国立九州大学大学院工学府の研究生に合格し、その後大学院の入学試験を受けて、大学院に合格しました。2014年4月から大学院生としての生活を正式にスタートしました。

この一年間の日本語学習生活では、先生方及びクラスメイトから多くの助けと支えを頂きました。ここで、先生方と良き友人であるクラスメイトの皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

亜細亜友之会外語学院は学生管理がとても厳しく、タイムカードで学生の出席を管理しています。やむを得ず休む時にも必ず学校に連絡しなければなりません。毎月、各クラス各学生の出席率を教室の壁に掲示することになっています。また、学校は定期テストを行い、テストの成績によって上のクラスに上がることもできるし、下のクラスに下がってしまうこともあります。真面目に勉強せず、宿題を出さなかった学生は必ず日本語で反省文を書き、校長先生の前で反省文を読まなければなりません。このような厳しい管理と先生方の丁寧で細やかな指導により、亜細亜友之会外語学院は長年高い進学率を維持しています。また、それだけではなく、進学指導もとても充実していて、定期的に進学説明会及び1対1の進学相談が行われています。

理工系の学生として、私自身の進学の経験について簡単に紹介したいと思います。

皆さんのご周知のように、日本で大学へ進学するには2つの選択肢があります。一つ目は大学院の入学試験を受けて直接大学院生になる方法です。この方法が一番分かりやすいのですが、学校によってはかなり難しいと思われれます。二つ目は、直接希望する教授と連絡を取って研究生になり、半年或いは一年間研究生として勉強して、その後大学院の入学試験を受けて最終的に大学院生になるという方法です。多くの国立大学或いは有名な私立大学の教授は、留学生に対しては、まず研究生になってもらってその後の勉強の様子と研究の進展を見極めて、最後にこの学生を正式に大学院生として受け入れるかどうかを判断するようです。

日本語学校では、しっかり日本語を勉強して先生のアドバイスをきちんと聞き、しっかりした研究テーマと進学目標を定めたほうが良いと思います。そうでないと、自分が日本に来た理由と将来の目標をすぐ見失ってしまう恐れがあります。理系の学生は日本語以外に、英語の勉強ももちろん大変重要な課題です。国立大学或いは有名な私立大学の理工学研究科に出願する時に、日本語の成績だけではなく、TOEIC 或いは TOEFL の成績も必要とされています。そのため、日本語だけでなく、英語も理系の学生にとっては欠かせない条件の一つとなっています。

最後に、後輩の皆さん全員が希望する大学、大学院に合格できるよう祈っています。